

地理学会ニュース 2017年度 第3号

法政大学地理学会 2017年12月11日発行

2017年度

法政大学地理学術大会開催について

本年度の法政大学地理学術大会（法政大学文学部地理学科と共催）を下記の通り開催します。当日は、会員による一般口頭発表・ポスター発表に加え、本年度提出された卒業論文すべての発表および第7回学会賞（最優秀卒業論文賞を含む）の発表が予定されております。

また、大会終了後の懇親会では、第7回学会賞受賞者の表彰も行われます。会員皆様、万障お繰り合わせの上、市ヶ谷キャンパスに足をお運び下さいますようご案内申し上げます。なお、プログラムなど詳細につきましては、本会ウェブサイトにてお知らせします。

記

開催期日：2018年2月24日（土）

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎

＜一般発表の申し込みについて＞

2017年度法政大学地理学術大会での一般発表を希望される会員は、以下にしたがって指定期日までにお申し込み下さい。

1) 一般発表には「口頭発表」と「ポスター発表」の2種類があります。ご希望の種別を明示してお申し込み下さい。1人あたりの申し込み数については制限がありませんので、同一人の複数申し込みも可能です。ただし、その場合は、発表ごとに「発表申込用紙」をご提出下さい。

2) 口頭発表においては、①自然地理学、②人文地理学に関するものに加えて、③地理教育に関するもの、④その他地理に関係した報告・紹介なども受け付けます。

3) ポスター発表においては、上記①～④に加えて、a) 海外調査の紹介、b) 社会的活動の紹介・報告、c) 研究・教育グループの活動紹介、d) その他本学会活動に関係する紹介・報告などを目的とするものも受け付けます。展示できるポスターは1発表につき1枚とし、大きさはA0サイズ（縦）以下でお願いします。

4) 口頭発表・ポスター発表を希望される会員は、本会指定の「発表申込用紙」（学会ニュース本号末尾に印刷されたものを利用するか、本学会ウェブサイトよりダウンロードも可能）を利用し、必要事項をご記入の上、郵便、FAX、メール添付にて下記宛てにお送り下さい。一般発表の申し込み受付は、2017年1月19日（金）までとします。

郵便：〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学科教室内

法政大学地理学会集会委員会宛

FAX：03-3264-9459

e-mail：shukai@chiri.info

（集会委員長・前杳英明）

法政大学地理学会 2017年度

第2回例会（巡見）の報告

テーマ：荒川上中流の自然と人々の生活 一 地質・地形、舟運および洪水対策一

11月18日（土）朝10時半、寒波の影響で冷たい風が身に染みる中、秩父鉄道上長瀨駅改札口の集合場所には多くの参加者が集まっています。今回の巡見の参加者は29名と、遠いところにも関わらず多くの人が参加され、盛況な巡見になったこと大変喜ばしく思います。参加者は通教課程の学生を中心に、通学課程の学生、一般会員（院生含む）に至り、参加者によって

は今回の巡見で初めて会うことになった人も多かったのではないかと思います。

当日の移動ルートは前回の学会ニュースレターで案内した内容とは若干異なり、埼玉県立自然の博物館→親鼻橋から長瀨ライン下りAコース（8名分しか予約できなかったため、その他の人は長瀨駅まで徒歩で荒川の自然地形を見学）→長瀨駅周辺で各自昼食、散策（徒歩組は上長瀨駅で各自昼食）→長瀨～鉢形に鉄道で移動→埼玉県立川の博物館見学→鉢形駅に戻り解散（希望者にて川越駅で懇親会）となりました（長瀨ライン下りは紅葉シーズンのため、予約制限がかかり1か月以上前からでも人数分の予約が困難でした）。

埼玉県立自然の博物館では、長瀨の特徴である片岩についての資料が多く展示されていて、その成因や違いについて多くの参加者が関心を寄せていました。見学後は、博物館前にある日本地質学発祥の地の石碑前にて記念写真を撮り、親鼻橋へと向かいました。

親鼻橋は長瀨ライン下りの出発地点であると同時に、紅簾石片岩の露頭とポットホールが見られることでも有名です。紅簾石片岩の露頭は世界的にも貴重で、日本の火山活動、造山運動と荒川の下刻作用が生み出した美景と言えるでしょう。ポットホールは、この露頭がかつて荒川の河床であった際に礫と水流によって生み出されたものであり、見事な円形の穴が出来ています。露頭の見学と同時に、ここでは細田先生に荒川と秩父についての説明をして頂きました。荒川は、現在の山梨県（甲州）、東京都（武蔵）、長野県（信州）の境に位置する甲武信岳を水源とする河川で、秩父山地、関東平野を経て最終的に東京湾へ流出します。秩父は標高によって気候区分が変化し、山頂でも亜寒帯林に覆われています。一見ただの岩のように見えても、こうした背景を学ぶことによってより自然地理学への関心が高まります。

親鼻橋にて長瀨ライン下り組と一旦別れ、徒歩組は上長瀨駅周辺まで戻り昼食後、虎岩や岩畳、秩父の赤壁といった長瀨の景勝地を見学しました。高水敷では洪水の跡も見られ、徒歩は疲れる分、様々な情報を知れることが楽しみの一つと言えるでしょう。その後、鉢形駅までは秩父鉄道で移動しました。フルラッピング列車

の「秩父三社トレイン」という少し変わった電車での移動です。車内もラッピングされていて乗車時も楽しめたものの、車窓までラッピングされていてしまっており、外の景色を楽しむことが出来なかったのは残念です。

さて、鉢形駅から歩いて荒川の谷底平野まで行き、埼玉県立川の博物館に到着です。大きな水車が印象的なこの博物館では、荒川大模型（荒川流域を1/1000に縮小）と鉄砲堰の実演を見ることができます。荒川大模型では、羽佐田先生に解説して頂きながら、源流の甲武信岳から秩父盆地、狭窄部である長瀨、日本一の川幅を有する鴻巣から東京湾まで荒川の全容を見学しました。その後、材木を輸送する手段として使われた鉄砲堰の説明を聞いた後、モデルでの実演を見学しました。実物と比べ多少小さいにせよ、水流の迫力は十分感じることができます。他にも水塚など川と人間の営みについて展示されていて、地理学への興味が一段と増す博物館でした。

日が暮れる中、一日中歩いた足で荒川の河岸段丘を登るのは少し辛かったですが、ほぼ予定通りに巡見を行う事ができました。鉢形駅にて解散後は川越駅で懇親会も実施され、大変楽しい一日となりました。川越駅までは疲れからか皆さん居眠りしてしまっていたようですが、懇親会は大盛り上がりでした。今回の巡見は少し遠出するような形でしたが、現地研究とは違いバスや宿泊場所、飛行機の手配が必要なく、比較的気軽に実行できることが強みです。こうした強みを生かして、積極的に巡見を実施できればと思う次第です。以上、2017年度第2回例会の報告でした。（集会委員・齋藤圭）



写真1 長瀨の岩畳と赤壁



写真2 紅簾石片岩とポットホルの露頭前で



写真3 日本地質学発祥の地石碑前で

望月宏美さん（学生会員）が第56回日本生気象学会大会若手・学生発表コンテストで優秀賞を受賞

望月宏美さん（学生会員・4年生）は、法政大学文学部地理学科入学後、勉学並びに課外活動（体育会ワンダーフォーゲル部）に励み、2年次より気候学ゼミ（2017年3月までは佐藤典人名誉教授が指導、4月より山口が担当）に所属し、気候学に関する研究を継続してきました。

卒業論文作成に当たり、以前から関心を持っていた「ツマグロヒョウモンの北上に関する生気候学的研究」をテーマとし、気候変化とツマグロヒョウモンの分布を中心に解析を進めてきました。

その結果、ツマグロヒョウモンの北上は、地球温暖化に伴う冬季の気温上昇だけではなく、幼虫の食草が野生のスミレからパンジーへ変わり、国内におけるパンジーの分布が拡大したことが寄与していることを、全国を対象に明らかにしました。

日本生気象学会大会若手・学生発表コンテストは、2001年の第41回日本生気象学会大会よ

り毎年開催されており、年齢制限は設けられておらず、主に、学部生・院生・ポスドクを対象に、研究内容はもとより、専門分野の異なる研究者にもわかりやすい発表、質疑応答が評価対象となっています。評価者は、日本生気象学会幹事を中心とした生気象学の専門家30人程度です。今回は、18名（京都府大2名、信州大1名、筑波大2名、桐蔭横浜大1名、奈良女大8名、法政大1名、立正大1名、早大2名）がエントリーし、3名が優秀賞を受賞しました。エントリーした学生の多くは院生の中、初めての学会発表にもかかわらず、大変健闘されました。全国を対象とした学術大会での口頭発表であり、研究をさらに進める傍ら、口頭発表のスライド作り、発表練習を繰り返し、本番に臨みました。口頭発表後、結果発表前より、多くの研究者からお褒めの言葉をいただきました。

望月宏美さん、受賞おめでとうございます。
（一般会員・地理学科准教授 山口隆子）

【会計委員会】

会員動向(2017.9.1から11.30までの会員動向です。敬称略、申し込み順)

[一般]

吉原 圭佑(静岡)

[学生]

鈴木 亜也(東京)・高村 岳(東京)・蝦名 このみ(東京)・才川 正樹(東京)

今回のニュース発行・送付に合わせて、一部の会員様については会費納入状況のお知らせを同封いたしました。現在、2014年度以前の会費未納の方については機関誌・学会ニュース等の発送を停止しておりますので、会費未納の会員様におかれましては速やかな納入をお願いいたします。

本学会は会員皆様の会費によって運営されておりますので、その点をご理解いただき、ご協力ほどよろしくお願い申し上げます。なお、今年度発行のニュース(1号・2号)末尾に記載されていた口座番号が一桁足りない状態でしたので、この場にてお詫び致します。

住所不明者(敬称略)

阿部智臣・工藤哲男・佐藤功・田口圭子・塚本

裕子・橋本達也・増田俊樹・吉田正人

上記の方の連絡先をご存知の方がいらっしゃいましたら、学会まで連絡先をお知らせいただけますよう、ご本人様にお声がけをお願いいたします。特に通信教育部所属の学生会員の情報は個人情報管理の観点から大学事務からの連絡は一切ございませんので、住所変更の際にはご面倒ですが当学会まで一報をお願いいたします。

【編集委員会】

機関誌「法政地理」投稿規定の改正

法政地理に掲載した論文等の著作権については、これまで投稿規定に明記していませんでした。そのため、編集委員会で検討し、12月6日の常任委員会に諮り承認されましたので、以下のように投稿規定を改正します（アンダーラインの部分が変更と追加した箇所です）。

『法政地理』投稿規定

1987年1月 制定

2017年12月 第7回改訂『法政地理』編集委員会

- 1) 法政大学地理学会のすべての会員は、会誌『法政地理』に投稿することができる。
- 2) 原稿の種類は論説、研究ノート、フォーラム（会員からの情報や話題）、資料解説、文献紹介などとする。
- 3) 「法政地理」に掲載されたすべての論文の著作権は、法政大学地理学会に帰属する。
- 4) 投稿された原稿は、査読者の査読結果に基づき、編集委員会がその採否を決定する。編集委員会が必要と認めたとき、原稿の加除訂正を著者に求める。極めて小部分の語句訂正は編集委員会でおこなう。投稿規定から著しく逸脱したと判断された原稿は著者に差戻す。
- 5) 原稿は原則としてワープロソフトで作成する。手書きによる原稿を希望する場合は、事前に編集委員会と協議する。原稿の分量は論説を

刷上がり16頁、研究ノートを12頁、フォーラムを8頁、資料解説を4頁、文献紹介を2頁以内とする。原稿はB5版に横書きし、天地左右の余白と行間隔を十分に取り、1枚22字×20行（文献紹介は24字×20行）で作成する。刷上がり1頁は原稿4枚に相当する。

編集委員会が認めた超過頁分の経費やカラー印刷について会誌製作に関わる追加の諸経費が発生した場合、原則として著者の実費負担とする。ただし、編集委員会が特別に依頼するものはこの頁制限通りではない。原稿の提出は電子媒体（CD、フラッシュメモリなど、以下同じ）あるいは電子メールの添付ファイルとし、文書ファイルは一太郎・Word・テキストファイルのいずれかの形式とする。

6) 刷上がりレイアウトはB5版とし、1頁22字×41行×2段組で編集委員会において作成する。表題、要旨、キーワードは1段組みにし、行間などは既刊の『法政地理』を参考にする。図表および写真は、レイアウト内に刷上がりサイズ分の余白を取り、図表番号を指示する。図表の縮小率（%）を示す。

7) 論説、研究ノート、フォーラム、資料解説には、英文の表題をつける。論説、研究ノートには400字以内の和文要旨と5つ以内のキーワード（英文併記）をつけることとし、また、別途300語以内の英文要旨をつけることができる。

8) 原稿はすべて横書きとし、特に必要な場合を除き、当用漢字、新仮名遣いを用いる。数字は基本的にSI単位を用い、kg、km、ha、tなどを用いる。年号は西暦を用い、必要があれば元号を括弧に入れて併用する。印刷に際してイタリック体を用いたり、傍線、傍点をつける場合には、原稿にその旨を指示する。なお、行末にはみ出す句読点、閉じ括弧などは、改行せずに行末に記す。ただし、始め括弧は文頭に記す。数字及び数字の小文字は1マスに2字あてて。

9) 本文の構成は「章」をⅠ、Ⅱ、Ⅲ、「節」を1、2、3、「項」を1)、2)、3) で表わす。注記は本文の末尾にまとめて示し、注記番号は本文中の該当箇所に1マスを取り、右上肩に片括弧

をつけた通し番号で示す。注記の文章は1行24字書きとする。

10) 文献は、本文または注記中に小原敬士(1965)、辻村太郎(1923a)などの形で表わし、論文最末尾に参考文献をまとめて次の様式で表示する。和文のものを先にし、著者名は50音順、欧文は著者名のアルファベット順、同じ著者の場合は文献の発表年次順に並べ、該当頁数を示す。

○和文文献

石田龍次郎 1971. 嘉南農田水利組合と高雄出口加工区. 経済地理学年報 17. 1-23.

小原敬士 1965. 近代資本主義の地理学. 大明堂.

綿谷起夫 1959. 資本主義の発展と農民の階層分化. 東畑精一・宇野弘蔵編『日本

資本主義と農業』. 岩波書店. 123-166.

アルフレート・ヴェーバー, 江澤譲爾訳 1938.

工業分布論. 改造社出版.

○欧文文献

Anuchin, V. A., Balteanu, D. and Serban, M. 1973. Theory of Geography.

Chorley, R. J. ed. *Directions in Geography*. Methuen. London. 25-78.

Dorward, N. M. M. and Wisse, M. J. 1978. Market Areas in Product Differentiated Industries. *Economic Geography* 54. 5-17.

Holland, S. 1976. *Human Geography*. Macmillan Press. London.

11) 図表などには第1図, 第1表のようにそれぞれ通し番号をつけ, その挿入箇所を原稿の欄外に(第2図)の形で朱書きして指示する。図表などの表題や説明文は番号順に別紙にまとめて提出する。

12) 図表はそのまま製版できるものを提出する。図の寸法は刷上がりの1.5倍程度が望ましく, 図表には縮小率(%)を指示する。なお, 図の刷上がりの左右の幅は1段分(最大70mm)か2段分(最大145mm), 天地は表題や注記などを含み最大200mmとし, 図中の文字は, 印刷時の文字の大きさが2.5mm角程度になるようにする。地

図には方位と縮尺(目盛り尺で示す)を必ず入れる。

13) 表の形は既刊の『法政地理』を参照し, できるだけ簡潔に作成する。

14) 以上の他, 細目は『法政地理』最新号を参考にする。

15) 投稿にあたっては, 本誌綴じ込みの送付状に必要な事項を記入し, 原稿, 刷上がりレイアウト, 図表などとそれら一切のコピー1部, 電子媒体を添付して提出する。また, 著者校正のために必ず手元にコピーを残しておく。受理された原稿と電子媒体は原則として返却しない。ただし, 図表や写真は投稿時に申し出があれば返却する。

16) 著者の実費負担により50部単位で別刷りを作成できる。ただし, 学生会員については50部まで無料とする。

連絡先: 法政大学地理学会

『法政地理』編集委員会

〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

FAX: 03-3264-9459

Mail: henshu@chiri.info

〈〈学会ニュース原稿の募集〉〉

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を広く会員の皆様から募集しております。原稿のご相談は, 下記の連絡先までお願いいたします。

連絡先: 庶務委員会 (shomu@chiri.info)

2017年12月11日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax. 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-167442

2017 年度法政大学地理学術大会

一般発表申込書

1) 申込者

氏名： _____ 所属： _____

住所： _____

電話番号： _____ E-mail： _____

2) 発表の形式（○を付けて下さい）

1. 口頭発表 2. ポスター発表

3) 発表のタイトル

4) 連名発表の場合、全員の氏名（所属）をご記入し、口頭発表を行う人の氏名を○で囲んで下さい。

5) 発表要旨（500 字以内）

